

2021年3月期第2四半期 決算説明資料

2020年11月19日

1. 不適切な会計処理に対する対応
2. 2021年3月期第2四半期業績
3. 2021年3月期通期見通し

青島福生食品におけるこれまでの経緯

青島福生食品有限公司（中国山東省）：1994年に当社が買収

主要な事業は水産加工品、冷凍野菜の製造・販売

4～7月	新型コロナの影響、追加監査による決算発表の遅れ	
7月27日	エビ取引についての特別調査委員会設置	
9月23日	調査報告書受領 取引の実在性の確認には至らず	
9月30日	過年度決算訂正、2020年3月期決算発表、 2021年3月期第1四半期報告書延長承認	1回目の調査
<hr/>		
10月1日	棚卸資産の評価に関する疑義が発生	2回目の調査
10月7日	再度の特別調査委員会設置	
10月15日	四半期報告書提出遅延開示、監理銘柄（確認中）指定	↓ 指定解除
10月28日	過年度決算訂正、2021年3月期第1四半期報告書提出	
11月13日	第二次調査報告書受領	
11月16日	2021年3月期第2四半期報告書提出 結論の不表明	

※第二次調査報告書の全文は、2020年11月13日適時開示「特別調査委員会の第二次調査報告書の受領に関するお知らせ」をご覧ください。

青島福生食品と当社に対し多くの問題点を指摘、改善策を提言

9/23受領 調査報告書

11/13受領 第二次調査報告書

調査項目	9/23受領 調査報告書	11/13受領 第二次調査報告書
調査項目	エビ取引の実在性に関する調査	棚卸資産の評価に関する不適切な会計処理の疑義についての調査
青島福生食品	<ul style="list-style-type: none"> ① 適切な証憑の作成および管理の徹底 ② IT管理の導入 ③ 内部管理体制の改善 ④ コミュニケーションルートの充実化 ⑤ サクセッションプランの策定 	<ul style="list-style-type: none"> ① 在庫に係る管理体制の改善 ② 財務報告に係る意識の改革
理研ビタミン	青島福生食品に対するグループ・ガバナンス体制の全体的な見直し	<ul style="list-style-type: none"> ① 内部統制に係る改善 ② グループ・ガバナンスの抜本的見直し ③ グループとしての責任の所在の明確化

再発防止に向けた改革に全力で取り組み、信頼回復に努める

<p>■ 経営責任の明確化</p>	<p>代表取締役・取締役の異動（辞任、降格）、役員報酬の減額</p>
<p>■ 当社ガバナンス体制の見直し</p>	<p>(1) 取締役会の機構改革 (2) 監査等委員による監査機能の強化・内部監査体制の強化 (3) 経営幹部の職責に対する意識改革</p>
<p>■ 青島福生食品における内部統制の不備の改善</p>	<p>(1) 経営幹部の刷新、コミュニケーションの強化 総経理を交代、副総経理に当社社員を任命 (2) 在庫管理体制の強化・その他の業務の見直し、従業員の意識改革</p>
<p>■ グループとしての子会社ガバナンスの強化</p>	<p>(1) 子会社に対する管理強化およびコミュニケーションの強化 (2) 青島福生食品以外の子会社における管理体制・業務手順の再確認 (3) コンプライアンス教育の徹底と内部通報制度の拡充</p>

※詳しくは2020年11月19日適時開示「特別調査委員会の第二次調査報告書を受けた当社の対応に関するお知らせ」「代表取締役および取締役の異動、ならびに役員報酬の減額に関するお知らせ」をご覧ください。

当社は、監査法人が結論の不表明に至った事由を非常に重く受け止めており、青島福生食品の全社的な内部統制の重要な不備を早急に改善する

監査法人による結論の不表明の根拠（四半期レビュー報告書より抜粋）

会社は、当連結会計年度の四半期連結財務諸表の作成にあたって、連結子会社の青島福生食品有限公司（2020年9月30日現在の総資産8,031百万円）において実在性が確認できなかった特定の顧客向けのエビ加工販売等の取引に係る売上高を取り消し、既入金額を仮受金として計上するとともに、取り消した売上に対応する売上原価（特定の仕入先からの仕入高を含む）を特別損失の水産加工品取引関連損失として計上しているが、当監査法人は当該売上の計上及び取り消し処理について裏付けとなる十分な記録及び資料を会社から入手することができなかった。

**エビ取引
の実在性**

また、会社は、当連結会計年度の四半期連結財務諸表の作成にあたって、青島福生食品有限公司において過年度より滞留していたたな卸資産に係る評価損を売上原価として計上しているが、当監査法人は当該たな卸資産の評価について裏付けとなる十分な記録及び資料を会社から入手することができなかった。

**棚卸資産
の評価**

さらに、青島福生食品有限公司の全社的な内部統制の重要な不備が改善されておらず、また、会社は、同社の重要な不備の改善後における他の財務数値への影響を検証できていないことから、当監査法人は当該検証結果を評価できず、同社の他の財務数値において、上記の四半期連結財務諸表に重要な虚偽表示を生じさせる取引やその他の事象があるか否かについて判断することができなかった。

**内部統制
の不備**

これらの結果、当監査法人は、会社の当連結会計年度の四半期連結財務諸表を構成する青島福生食品有限公司の財務情報に関して結論の表明の基礎となる証拠を入手することができなかったため、四半期連結財務諸表を構成する数値に修正が必要かどうかについて判断することができなかった。

結論

青島福生食品関連 業績への主な影響

1. エビの加工販売の取引（1回目調査） 特損計上は2Qまで

単位：百万円

取引の実在性が確認できなかった売上高を取り消し、対応する売上原価分を特別損失に計上

	2019/3期	2020/3期	2021/3期 2Q
売上高への影響	▲863	▲12,351	▲1,500
特別損失の計上額	▲853	▲12,050	▲1,478

2. 棚卸資産の評価（2回目調査） 3Q以降の影響は軽微

棚卸資産の評価の修正→流動資産、売上原価に影響。売上高への影響は無し

	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期 2Q
営業利益への影響	▲22	▲241	▲848	▲470	▲1,709	▲279

2021年3月期第2四半期末における総資産への影響額 ▲2,858百万円

3. 輸入冷凍水産物の評価（新型コロナ影響） 3Q以降、新型コロナの状況に影響を受ける

輸入冷凍水産物の中国国内向け販売が著しく低迷しており、販売の見通しが立たない冷凍水産物の評価損を計上

	2021/3期 2Q
営業利益への影響	▲2,292

1. 不適切な会計処理に対する対応
2. 2021年3月期第2四半期業績
3. 2021年3月期通期見通し

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を幅広く受け、減収
青島福生食品の棚卸資産評価損、特別損失の計上により赤字

単位：百万円

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前期比		業績予想との比較	
			増減額	増減率	予想	差額
売上高	41,531	37,960	▲3,571	▲8.6%	38,000	▲39
営業利益	3,032	▲495	▲3,527	-	▲400	▲95
経常利益	2,728	▲561	▲3,290	-	▲500	▲61
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲5,479	▲2,858	+2,620	-	▲2,800	▲58

セグメント別実績

全セグメントで減収減益 家庭用食品は好調に推移

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前期比		2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
国内食品事業	28,917	27,090	▲1,826	▲6.3%	2,464	2,176	▲288	▲11.7%
家庭用食品	6,718	7,354	635	+9.5%				
業務用食品	10,725	9,007	▲1,717	▲16.0%				
加工食品用原料等	11,473	10,728	▲744	▲6.5%				
国内化成品その他事業	3,279	2,955	▲323	▲9.9%	343	228	▲114	▲33.4%
海外事業	10,080	8,624	▲1,456	▲14.4%	430	▲2,406	▲2,836	-
海外改良剤	7,666	6,748	▲918	▲12.0%	477	254	▲222	▲46.6%
青島福生食品	2,413	1,876	▲537	▲22.3%	▲47	▲2,661	▲2,613	-

自己資本比率は44.4%（前期末比-1.1pt）

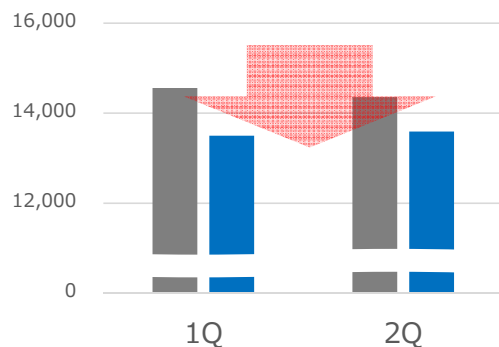
単位：百万円

	2020年3月期 期末	2021年3月期 第2四半期	差額	主な増減要因
流動資産	52,515	49,179	▲3,336	現金及び預金▲837 受取手形及び売掛金▲1,693
固定資産	49,337	51,510	+2,172	投資有価証券+2,200
資産合計	101,853	100,689	▲1,163	
流動負債	36,191	49,349	+13,157	支払手形及び買掛金▲916 短期借入金+13,254、仮受金+1,208
固定負債	18,872	6,119	▲12,752	長期借入金▲13,301
負債合計	55,064	55,469	+405	
純資産合計	46,789	45,219	▲1,569	利益剰余金▲3,576 その他有価証券評価差額金+1,692

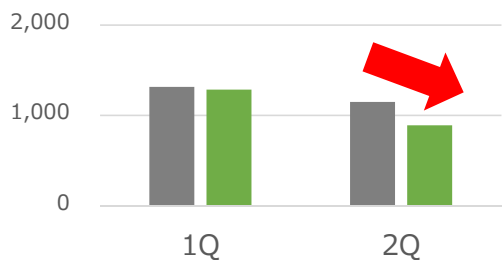
国内食品事業：家庭用は伸長も、業務用・加工食品用原料等をカバーできず

国内食品事業		
(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	28,917	27,090

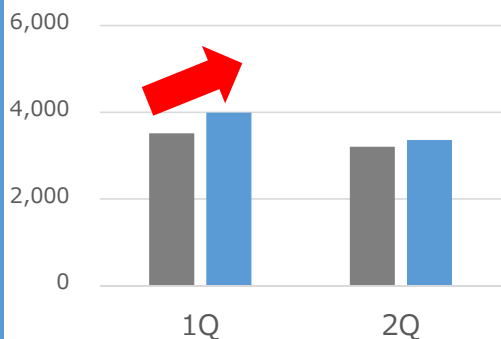
● 四半期売上高



● 四半期営業利益

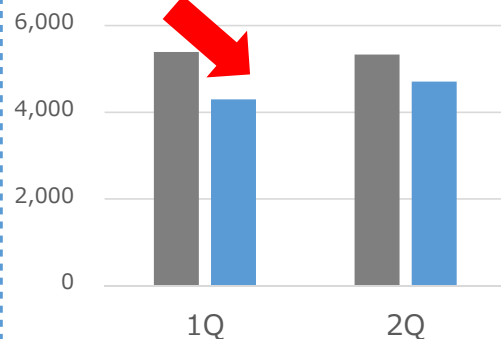


(家庭用食品)		
(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	6,718	7,354



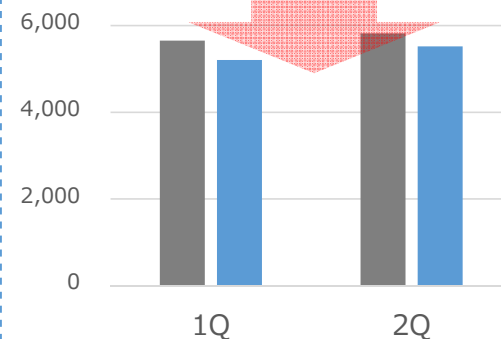
- ノンオイルドレッシングは巣ごもり消費に加えTVCM効果もあり前年を上回る
- ふえるわかめ®、わかめスープなども軒並み伸長
- 特需は7月まで、8月以降は前年並みで安定的に推移

(業務用食品)		
(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	10,725	9,007



- 緊急事態宣言下の4-5月を中心に外食・学校給食向け需要が落ち込み、1Qは大幅減収
- 6月以降学校給食は回復するも、外食は依然苦戦
- CVS向けも在宅勤務の定着などからビジネス需要の低迷が長期化

(加工食品用原料等)		
(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	11,473	10,728



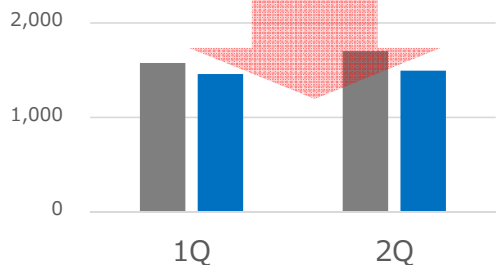
- 外出自粛に伴い土産菓子向け需要が激減、在宅勤務の増加で缶コーヒー等の嗜好飲料向けやガム、タブレット菓子等の携帯用菓子向けも苦戦
- 一部好調な分野もあるが、マイナスをカバーできず

国内化成品その他事業：2Qに大幅減益 海外事業：改良剤の工場停止が影響

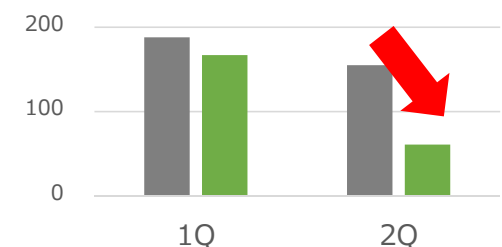
国内化成品その他事業

(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	3,279	2,955

● 四半期売上高



● 四半期営業利益

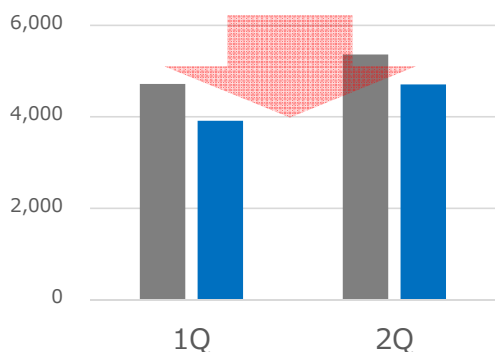


- 米中貿易摩擦にコロナ影響が加わり幅広い分野で需要減
- 8月以降売上はゆるやかに回復基調

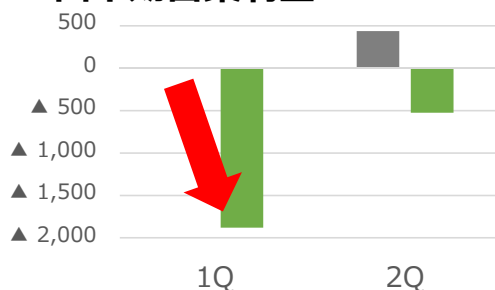
海外事業

(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	10,080	8,624

● 四半期売上高

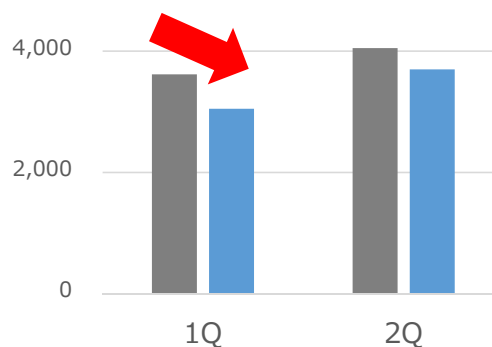


● 四半期営業利益



(海外改良剤)

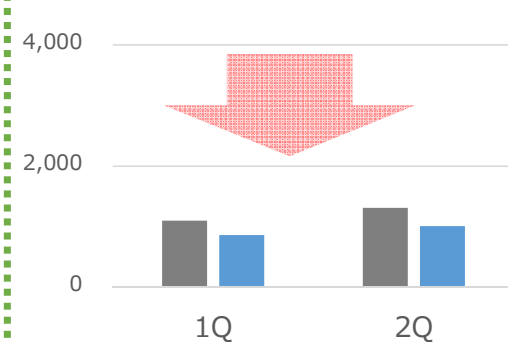
(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	7,666	6,748



- 1Qはコロナ影響によるマレーシアの工場停止が大きく影響
- 5月以降、供給面の不安は解消されたが、化成品分野を中心に需要の低迷と営業活動の制限による販売不振は続く
- 中国市場における食品改良剤需要は回復

(青島福生食品)

(百万円)	前期 2Q累計	当期 2Q累計
通期売上高	2,413	1,876



- 前期に続きエビ加工販売取引の売上取消により売上規模縮小、コロナ影響により前期比でも減収
- たな卸資産評価損2,292百万円を計上し、大幅な営業赤字

東京工場再構築に係る固定資産取得費などで投資支出が増加

単位：百万円

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	前期比	主な要因
営業キャッシュ・フロー	1,499	2,164	+ 665	税金等調整前四半期純損失▲2,281 水産加工品取引関連損失1,478 仮受金の受取額1,571 水産加工品取引関連損失に係る支払額▲1,905
投資キャッシュ・フロー	▲1,926	▲2,356	▲430	有形固定資産の取得による支出2,537
財務キャッシュ・フロー	▲1,746	▲643	+ 1,103	長期借入金の返済による支出▲1,027 配当金の支払額▲718
現金及び現金同等物の 四半期末残高	12,921	12,684	▲236	

1. 不適切な会計処理に対する対応
2. 2021年3月期第2四半期業績
3. 2021年3月期通期見通し

2期連続の赤字となる予想、赤字幅は縮小

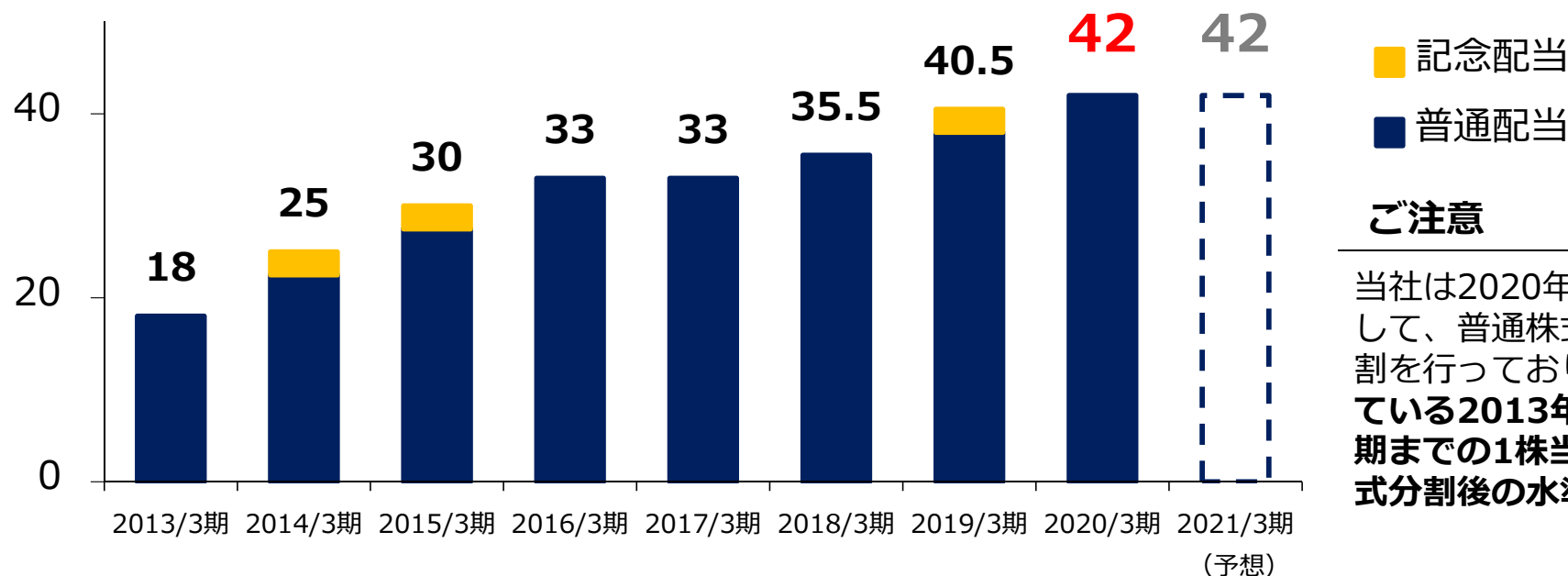
- 新型コロナウイルスの影響は下期も継続するが、上期よりマイナス影響は緩和すると予想
- 実在性が確認できなかった青島福生食品のエビ取引について、特別損失の計上は上期まで
- 通期予想に織り込んだ青島福生食品の棚卸資産評価損約22億円も、下期影響は軽微
- 営業利益および経常利益は通期で黒字となる見込み

単位：百万円

	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期予想	前期比		中期計画との比較	
			増減額	増減率	当初予想	差
売上高	82,974	78,000	▲4,974	▲6.0%	97,000	▲19,000
営業利益	5,307	2,000	▲3,307	▲62.3%	8,000	▲6,000
経常利益	5,045	1,800	▲3,245	▲64.3%	7,700	▲5,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲8,933	▲1,300	+7,633	-	5,400	▲6,700
ROE	▲17.0%	▲2.5%			8.0%	▲10.5pt

「長期的な視野に立った安定的な配当の実施」が基本方針
業績が大幅に変動しているものの、青島福生食品を除く当社グループの収益力は安定的なレベルを維持していることから、前期と同水準の配当を継続する予定

1株当たり年間配当金(円)



ご注意

当社は2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。グラフに記載している2013年3月期から2020年3月期までの1株当たり年間配当金は、株式分割後の水準で記載しています。

2021年3月期セグメント予想

国内は減収減益、海外は青島福生食品で新型コロナウイルスの大きな影響

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期予想	前期比		2020年3月期 通期	2021年3月期 通期予想	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
国内食品事業	57,546	55,000	▲2,546	▲4.4%	5,388	4,400	▲988	▲18.3%
家庭用食品	13,371	14,000	+628	+4.7%				
業務用食品	21,020	19,000	▲2,020	▲9.6%				
加工食品用原料等	23,154	22,000	▲1,154	▲5.0%				
国内化成品その他事業	6,631	6,400	▲231	▲3.5%	670	350	▲320	▲47.8%
海外事業	20,373	18,300	▲2,073	▲10.2%	▲292	▲2,100	▲1,807	-
海外改良剤	15,521	14,300	▲1,221	▲7.9%	850	700	▲150	▲17.7%
青島福生食品	4,852	4,000	▲852	▲17.6%	▲1,143	▲2,800	▲1,656	-

家庭用は内食志向の高まりに合わせ、家庭での料理を楽しむ提案に注力 業務用・加工食品用はコロナ禍に配慮した営業活動で売上回復に努める

家庭用食品

売上高：14,000百万円
前期比：+4.7%

TVCM、Web動画を通じて簡単・
手軽なレシピを提案

- リケンのノンオイルは引き続きTVCMを通じて売上拡大を図る
- 素材力だし®は発売20周年を記念してWeb動画を公開。内食志向の高まりを受け、いつもの料理を手軽に美味しく変身させる商品特長を訴求



業務用食品

売上高：19,000百万円
前期比：▲9.6%

コロナ影響の緩和に向けて粘り強く
営業活動を継続

- コロナ禍に配慮し、販促動画を活用した営業活動を実施
- 刺身わかめ、わかめ唐揚げなど当社の特色を出せる商材の提案を進める
- 和風だしの素など、粉末調味料に注力
- 食品ロス削減につながる賞味期限延長、工程・品質改善のテーマに取り組む



新商品や調理法などの
情報を動画配信



加工食品用原料等

売上高：22,000百万円
前期比：▲5.0%

Web面談等を活用したソリュー
ションビジネスを展開

- 試食や実演を伴う営業活動が困難な中、Web面談等で当社製剤の機能を伝えるための技術資料等を整備
- ヘルスケア部門では機能性表示食品対応済みの「クロセチン」や現在届出中の「パプリカロテン®」など、機能性食品原料の拡販を継続

パプリカロテンとは…



トウガラシやパプリカなどに含まれる色素成分「β-クリプトキサンチン」を含有する機能性食品原料です。骨を強くする効果などが期待されます。

国内化成品はバイオマスプラや抗菌剤などの新領域への提案を強化 海外改良剤は高付加価値製剤の営業活動を徐々に再開

国内化成品その他事業

売上高：6,400百万円
前期比：▲3.5%

環境意識・衛生需要の高まりに伴う
新たな需要に対応

- レジ袋有料化を背景に注目が高まるバイオマスプラスチック向け改良剤の提案を強化
- 消毒用アルコール製剤向け抗菌剤、フェイスシールド向け防曇剤など、コロナ禍に対応した提案にも注力



バイオマス

植物由来を表す
「バイオマスマーク」



アルコール製剤用 抗菌剤
(食品素材を使用)

海外事業

売上高：18,300百万円
前期比：▲10.2%

■ 改良剤分野は国内改良剤部門と
連携し付加価値製剤の拡売を図る

- 引き続き中国・東南アジアを重点エリアとして営業活動を推進
- 移動制限の緩和に合わせ海外APC※1における高付加価値製剤の提案を再開、日本国内のA&Iセンター※2と連携し、質の高いソリューション提案を行う

※1:アプリケーションセンター

※2:アプリケーション&イノベーションセンター

■ 青島福生食品は内部統制の改善を
最優先に進める

【海外改良剤】

売上高：14,300百万円
前期比：▲7.9%

国内外研究開発拠点のシナジー強化

A&Iセンター（日本）



シンガポールAPC



上海APC

～CO₂排出量削減の中長期目標※～

※理研ビタミン単体としての目標

日本のCO₂削減の中期目標である「2030年度までに26%削減」を踏まえ、当社独自のマイルストーンとして2023年度までのCO₂削減目標を策定

直接的なCO₂排出

2023年度 CO₂排出量 : **10%削減**
(2015年度比)

間接的なCO₂排出

2023年度 CO₂排出量 : **10%削減**
(2015年度比)

【再生可能エネルギーの利用】

CO₂削減の一環として、2019年開設のA&Iセンターには太陽光発電システムを導入。発電した電力は、エントランスに設置したモニターでリアルタイムに確認でき、A&Iセンターで使用される。



A&Iセンター屋上 太陽光発電パネル

～事業を通じた社会的課題の解決～

「三陸産わかめ唐揚げ」

揚げるだけで簡単に提供可能な、味付け済みのわかめの唐揚げ。従来、味噌汁や酢の物、サラダなどに用途が限られていたわかめの新たな価値を創造し、東北漁業の復興支援に寄与した点が評価され、第24回「外食産業貢献賞」（主催：日本食糧新聞社）を受賞。コロナ禍で苦戦する外食業界にも貢献。



<調理例>



12月1日 決算説明動画公開（当社ホームページにて）

12月17日 臨時株主総会

【報告事項】

第84期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件

【決議事項】

第1号議案：第84期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）
計算書類承認の件

第2号議案：第85期剰余金処分の件

12月18日 中間配当支払開始予定日

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予測したものです。

実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる
場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・IR室 井上・清水

T E L : 03-5362-1315

補足資料

連結業績推移

(百万円)	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期予想
売上高	75,398	77,568	85,419	85,603	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	78,000
前期比増減率	▲ 3.2%	2.9%	10.1%	0.2%	2.9%	▲ 1.0%	2.7%	▲ 0.5%	▲ 6.8%	▲ 6.0%
営業利益	2,567	3,600	5,027	4,610	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	2,000
前期比増減率	▲ 54.1%	40.3%	39.6%	▲ 8.3%	30.3%	13.5%	▲ 20.5%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 62.3%
売上高営業利益率	3.4%	4.6%	5.9%	5.4%	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	2.6%
経常利益	2,836	3,741	5,294	4,645	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,800
売上高経常利益率	3.8%	4.8%	6.2%	5.4%	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,415	2,406	3,590	3,755	4,107	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,300
売上高当期純利益率	1.9%	3.1%	4.2%	4.4%	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—
総資産額	86,524	94,257	102,345	114,049	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	
純資産額	56,363	60,728	67,253	76,036	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	
自己資本比率	64.8%	63.9%	65.1%	66.1%	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,537	3,064	6,908	5,941	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,376	▲5,697	▲3,578	▲5,690	▲6,389	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲179	▲1,334	▲861	▲1,222	▲3,140	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	
ROE	2.6%	4.1%	5.7%	5.3%	5.5%	6.4%	8.6%	4.5%	▲ 17.0%	▲ 2.5%

セグメント別四半期業績推移

(百万円)	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q前期比 増減率	2Q前期比 増減率	
売上高	国内食品事業計	14,860	14,605	15,875	13,254	14,560	14,356	15,164	13,464	13,498	13,592	▲ 7.3%	▲ 5.3%
	家庭用食品	3,878	3,542	3,550	2,967	3,514	3,204	3,379	3,273	3,992	3,361	13.6%	4.9%
	業務用食品	5,463	5,418	5,842	5,008	5,393	5,332	5,455	4,839	4,299	4,708	▲ 20.3%	▲ 11.7%
	加工食品用原料等	5,518	5,645	6,482	5,278	5,653	5,819	6,329	5,351	5,206	5,522	▲ 7.9%	▲ 5.1%
	国内化成品その他事業	1,600	1,719	1,785	1,581	1,576	1,702	1,844	1,507	1,460	1,495	▲ 7.4%	▲ 12.2%
	海外事業計	6,013	5,672	6,234	7,329	4,717	5,363	5,014	5,278	3,914	4,709	▲ 17.0%	▲ 12.2%
	海外改良剤	3,590	3,807	4,067	4,075	3,616	4,050	4,044	3,810	3,049	3,698	▲ 15.7%	▲ 8.7%
	青島福生食品	2,422	1,865	2,166	3,253	1,101	1,312	970	1,467	864	1,011	▲ 21.4%	▲ 23.0%
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 366	▲ 303	▲ 460	▲ 377	▲ 361	▲ 384	▲ 452	▲ 379	▲ 416	▲ 294	15.2%	▲ 23.4%
	連結合計	22,108	21,693	23,435	21,787	20,493	21,038	21,570	19,871	18,457	19,502	▲ 9.9%	▲ 7.3%
営業利益	国内食品事業	1,461	1,413	2,016	883	1,315	1,149	1,784	1,138	1,286	890	▲ 2.2%	▲ 22.5%
	国内化成品その他事業	165	195	207	163	188	155	195	131	167	61	▲ 11.2%	▲ 60.3%
	海外事業	▲ 177	▲ 578	▲ 253	▲ 531	▲ 7	437	311	▲ 1,034	▲ 1,881	▲ 525	-	-
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 153	▲ 88	▲ 112	▲ 31	▲ 40	▲ 164	▲ 74	▲ 178	▲ 295	▲ 199	-	-
	連結合計	1,295	942	1,858	484	1,455	1,576	2,217	57	▲ 722	227	-	-